

# 第18回 布施明の学園ソングに 元気づけられた時代

前回は故・平尾昌晃の傑作『霧の摩周湖』について触れましたが、再度、布施明に登場してもらいます。

ただし、私が一番熱心に聴いていたデビューの昭和40年から5年間くらいまでの歌に限られますので、お許しください。左記は、分野別「お気に入りベスト3」です。

1 カンツォーネ時代——『君に涙とほほえみを』『そよ風を君にあげよう』『貴方にひざまづいて』

布施の原点、ジャンニ・モランデイをはじめ、トニー・ダララ、ポビー・ソロ、女性ではミリーナやチンクエッティ、そして伊東ゆかりらが活躍していた時代、『シャボン玉ホリデー』で奥村チヨらといっしょにカンツォーネを歌っていた布施でしたが、美男に加え、その音域の広さに魅せられ、私にとって『ホイホイ・ミュージック・スクール』出身同士の望月浩とともに新進アイドルの双壁でした。

2 元気はつらつ学園ソング——『若い明日』『これが青春だ』『でっ

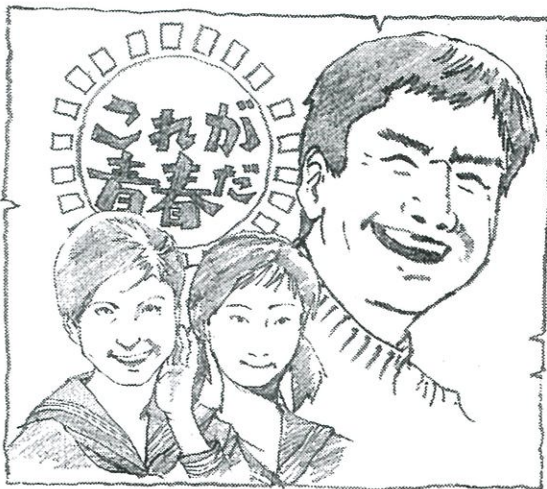
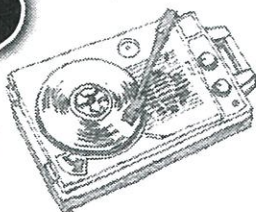
かい青春』

私が剣道一直線だった高校時代、真っ赤な太陽を両手でつかむような

名曲カルテ

# 昭和歌謡と いっまでも

堀井六郎  
絵・松本浦



余裕はありませんでしたが、多摩川の土手を走りながら向こう岸に沈んでいく夕陽と布施明のとびきり元気な歌声に勇気づけられたものです。中学・高校時代を通じて、藤山陽子や広瀬みさや亀井光代のような先生はいなかったけれど。

3 大人の世界に惹かれた囁きソング——『銀の涙』『涙をおふき』『そつとおやすみ』

『銀の涙』は、『霧の摩周湖』の前のシングル盤で、詞・水島哲、曲・平尾昌章、編曲・森岡賢一郎という『霧の摩周湖』と同じトリオの佳曲です。女性コーラス入りの平尾とのデュエット盤も素敵ですよ。

『涙をおふき』は昭和43年に発売されていますが、その6年ほど前に、実力派シンガー、鹿内タカシ(孝)がレコード化しています。

作曲はのちに名編曲家として知られることになる森岡賢一郎で、まだスマイリー小原とスカイライナイズのメンバーとしてピアノを弾いていた時期だったかもしれません。

オリジナル盤では、「作詞・ほんだせいじ」となっていますが、「ほんだ・せいじ↓ぼんた・せーし↓世志凡太」という仕掛けで、コメディアン世志凡太が作詞しています。

世志凡太のお笑いは、当時の演芸番組で頻繁に見ることはありませんでしたが、印象度は高く、シャンソンの『セ・シ・ボン』は、世志凡太の歌う「セーシボン、シボン、シボン」で覚えました。

蛇足ですが、世志凡太はフィンガー5『個人授業』の生みの親の一人で、パートナーは「女剣劇」で知られた浅香光代、かつて私がのめり込んだ『琴姫七変化』のルーツですね。

カラオケのエンディング・ソングの定番『そつとおやすみ』も、オリジナルはGSのハプニングス・フォーが自作自演したものです。